

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成19年9月27日(2007.9.27)

【公表番号】特表2007-502301(P2007-502301A)

【公表日】平成19年2月8日(2007.2.8)

【年通号数】公開・登録公報2007-005

【出願番号】特願2006-523413(P2006-523413)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/282 (2006.01)

A 6 1 K 33/24 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/282 Z N A

A 6 1 K 33/24

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 43/00 1 0 5

【手続補正書】

【提出日】平成19年8月6日(2007.8.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

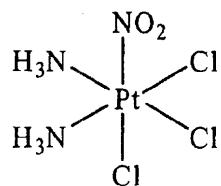
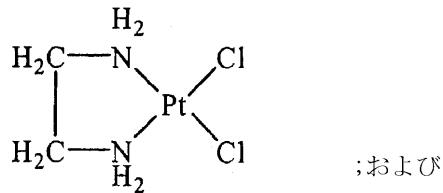
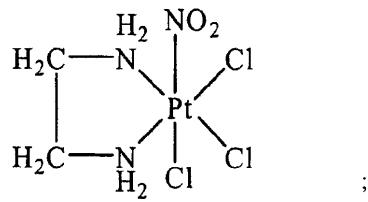
【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

以下からなる群より選択される白金錯体、またはその薬学的に許容される塩を、Stat3転写因子を発現する細胞に接触させる段階を含む、Stat3転写因子を阻害するための方法：



## 【請求項 2】

細胞が腫瘍細胞、癌細胞、または形質転換細胞である、請求項1記載の方法。

## 【請求項 3】

細胞が哺乳類細胞である、請求項1記載の方法。

## 【請求項 4】

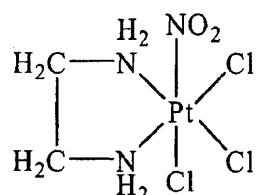
哺乳類細胞がヒト細胞、サル細胞、チンパンジー細胞、類人猿細胞、イヌ細胞、ネコ細胞、ウマ細胞、ウシ細胞、またはブタ細胞である、請求項3記載の方法。

## 【請求項 5】

白金錯体がリポソーム部分に封入されるか、または白金錯体が、細胞への白金錯体の送達を標的化するタンパク質もしくは核酸を含む、請求項1記載の方法。

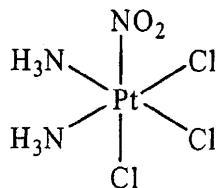
## 【請求項 6】

白金錯体が以下であるか、またはその薬学的に許容される塩である、請求項1記載の方法：



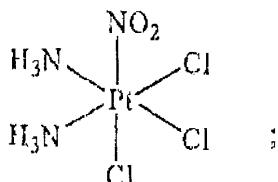
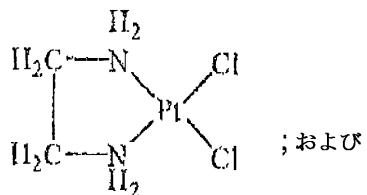
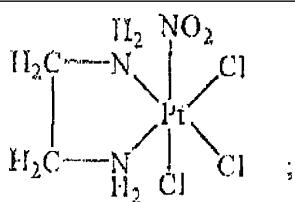
## 【請求項 7】

白金錯体が以下であるか、またはその薬学的に許容される塩である、請求項1記載の方法：



## 【請求項 8】

以下からなる群より選択される白金錯体またはその薬学的に許容される塩を細胞に接触させる段階を含む、異常または構成的にSTAT転写因子を発現する細胞の機能および／または増殖および／または複製を阻害する方法：



## 【請求項 9】

細胞が腫瘍細胞、癌細胞、または形質転換細胞である、請求項8記載の方法。

## 【請求項 10】

細胞が哺乳類細胞である、請求項8記載の方法。

## 【請求項 11】

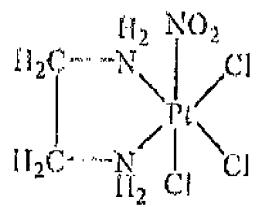
哺乳類細胞がヒト細胞、サル細胞、チンパンジー細胞、類人猿細胞、イヌ細胞、ネコ細胞、ウマ細胞、ウシ細胞、またはブタ細胞である、請求項10記載の方法。

## 【請求項 12】

白金錯体がリポソーム部分に封入されるか、または白金錯体が、細胞への白金錯体の送達を標的化するタンパク質もしくは核酸を含む、請求項8記載の方法。

## 【請求項 13】

白金錯体が以下であるか、またはその薬学的に許容される塩である、請求項8記載の方法：



◦